

北海道留辺蘂高等学校

課程 全日制
学科 総合学科
生徒数 187名

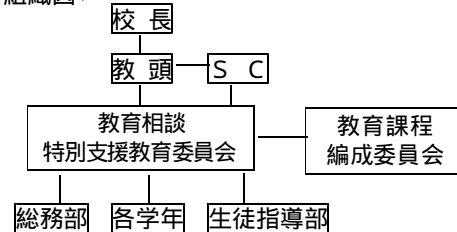
1 取組の特徴

本事業の取組が3年目を迎える本校は、入学当初から集団カウンセリングを積極的に展開し、生徒のコミュニケーション力の向上を図るとともに、学級環境適応調査(アセス)や子ども理解支援ツール「ほっと」を活用して、人間関係のトラブルの未然防止と自己肯定感や学級満足度を高めるための取組を行っている。

2 取組のねらい

- 1 コミュニケーションスキルを養成するためのトレーニングの手法の蓄積と研修を通して、全ての教員が構成的グループエンカウンターを実践できる体制づくりとそのスキルを活用した教科指導の工夫を図る。
- 2 「アセス」や「ほっと」による調査結果の分析と効果的な活用について研修を進め、教員のスキルアップを図る。

<組織図>



3 取組の経過

- | | |
|---|---|
| <p>4月・入学式後とHR開きにおける教員による集団カウンセリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none">・宿泊研修における集団カウンセリングの実施・第1回「アセス」の実施と分析 <p>6月・上級学校見学会全体発表会の開催</p> <ul style="list-style-type: none">・教員による集団カウンセリングの実施・「アセス」実施と分析(2学年) <p>7月・「アセス」実施と分析(3学年)</p> <p>8月・道教委主催の研修会に教員が参加</p> <p>9月・外部講師による教員研修会「アセスの理論と活用2」開催</p> | <p>10月・外部講師による集団カウンセリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none">・第1回「ほっと」実施 <p>11月・SCによる個別カウンセリングの実施</p> <p>12月・教員による集団カウンセリングの実施と外部講師による講評</p> <ul style="list-style-type: none">・個別カウンセリングの実施・道教委主催の研修会に教員が参加 <p>1月・教員による集団カウンセリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none">・第2回「ほっと」実施・第2回「アセス」実施と分析 <p>2月・高1クライシス未然防止事業の成果の検証と次年度計画の作成</p> |
|---|---|

4 取組の内容

- 1 教員による集団カウンセリング(4/9、4/10、4/18、4/22、4/27、6/20、12/19、1/23)
 - (1) ねらい 人間関係作りのエクササイズやコミュニケーショントレーニングを実施し、生徒の自己肯定感とコミュニケーションスキルを高める。
 - (2) 内容 入学直後の学年集会や宿泊研修、ホームルーム活動において「アイスブレイク」、「すごろくトーク」、「バースデイライン」などの構成的グループエンカウンターを実施した。その後、「プラスのストローク」、「傾聴トレーニング」、「話し合いのトレーニング」を実施した。
 - (3) 成果 生徒からは「クラスの皆と交流が深まったし、人のいろいろな面を見ることができて良かった。」「自分の良いところを教えてもらってうれしかった。」などの感想があり、生徒のコミュニケーションスキル向上とクラスのリレーションを高める効果があった。



宿泊研修でのSGE

4 取組の内容

2 外部講師による集団カウンセリング(10/17)

- (1) ねらい コミュニケーショントレーニングを通して、生徒の他者理解を深めるとともに、講師の手法を教員が学ぶ。
- (2) 内容 中野武房教授を講師に迎え、「じゃんけんトーク」のエクササイズを通して「聞くこと」のトレーニングを実施した。
- (3) 成果 生徒から「人と接することが苦手だったので、とても勉強になった。」「とても楽しかった。コミュニケーションをとるのは大事だと思った。」「相手にわかりやすく伝えることも難しいと思った。」などの感想があり、トレーニングを通して、楽しみながら、他の生徒に対する理解と聞き方の理解を深めることができた。



中野教授によるSGE

3 外部講師による教員研修会(9/4)

- (1) ねらい アセスの理論と分析方法について学ぶとともに、事例研究を通して実践的な理解を深める。
- (2) 内容 中野武房教授を講師に招き、昨年度に引き続き「アセスの理論と活用2」をテーマに講演及び事例研究を行った。
- (3) 成果 アセスについての専門的知識を得るとともに、事例研究を通して実践的に活用できるスキルを身に付けることができた。



中野教授による教員研修会

4 「アセス」と「ほっと」の実施と結果の分析(4/27、10/17、1/16)

「アセス」を1年生は4月と1月の年2回、2・3年生は6・7月にそれぞれ1回実施し、結果の分析を行った。また、「ほっと」を10月に実施し、調査結果からその後の学級経営の指針を立てることができた。1月に2回目を実施し、分析を行った。

5 各教科での取り組み

トレーニングで身につけたスキルを活用して、国語、数学、英語、保健体育、家庭、福祉の授業でペアワークやグループ学習を積極的に取り入れた。学習が得意な生徒が苦手な生徒に教えるなどのピア・サポート活動も取り入れている。



第1回アセスは宿泊研修で

5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者が減少した。
- (2) 遅刻者数及び保健室利用者数が減少した。
- (3) 入学当初は他者の意見を尊重する力の不足が目立ったが、トレーニングにより、お互いを認め合い、共感・傾聴する資質が醸成されてきた。学級、学年間での交友の幅も広がり、生徒間でのトラブルも減少してきたことから、コミュニケーションスキルは向上してきていると考えられる。
- (4) 子ども理解支援ツール「ほっと」の2回目の結果からは「思いやり」の項目において高い結果を得ることができた。
- (5) 1回目のアセスの結果において着目していた対人的適応において要支援領域にいた生徒数名はトレーニング実施後、数値が上昇し、全員が適応群に入った。

2 課題

- (1) 教員のスキルの更なる向上
- (2) 生徒の状況に応じた効果的なトレーニングの計画・実施
- (3) コミュニケーショントレーニングで身につけたスキルを教科等でも活用する実践の工夫

3 次年度に向けて

- (1) 講師の助言を得ながら教員が行うトレーニングの質を高め、トレーニングできる教員を増やしていく。
- (2) 生徒の状況に応じた効果的なトレーニングが展開できるようにしていく。
- (3) トレーニングで身につけたスキルを活用できるよう授業を工夫・改善していく。